



日本の国際協力について学ぶ

KAORU YAMAGUCHI

山口 薫

地理・地域研究
和歌山県立那賀高等学校

1 はじめに

今年度、地域研究ではアフリカを取り上げた。理由は4月から5月にかけて、シエラレオネの内戦の激化とジンバブエの農地収用をめぐるの混乱が連日新聞各紙に取り上げられ、生徒達の関心を引いたからである。授業対象者は国際科生徒3年生で、2週間のメカでのホームステイを経験しているが、異文化＝アメリカ文化と捉えないためにもアジア・アフリカの開発途上国の実状を捉えることが、バランスのとれた彼ら

の世界観の育成に役立つと考えた。

実践方法としては、座学の陥りやすい欠点である生徒の受け身的態度を改めさせるために、主体的活動として「要旨をまとめて話す」ことに中心をおいた。又、開発教育の手法も取り入れることとし、日本の国際協力について、その必要性を理解するために、貿易ゲームも取り入れた。

その上で、ケニアでの海外研修について、日本の国際協力の具体例として報告した。

2 地域研究の年間実践

	テーマ	実践内容	使用した教材
4月	植民地政策の傷跡	ジンバブエの農地強制収容をめぐる混乱について、新聞の切り抜きをし、 ①箇条書きにまとめる ②まとめて、相手に話す（二人組） ③聞いたことを、みんなに話す （補足は記事をもってきた本人）	新聞各紙
	シエラレオネ	国連平和維持軍の人質問題をとおして、シエラレオネの地域紛争を知る。上記①②③の作業。	新聞各紙
5月	シエラレオネとジンバブエの歴史を知る	資料を読み、まとめる。	国際情報大事典（学研）
	ペルー大統領選	大統領選の混乱の様相を知ることで、国家間の結びつき（OAS）や、ペルーの社会を知る ④黒板にキーワードを書き出す（全員） ⑤説明する	新聞各紙
6月	朝鮮半島の対話	金大中氏と金成日氏の会談をリアルタイムで知る。上記④⑤の作業。	新聞各紙 ビデオ

	テーマ	実施内容	使用した教材
9月	貧困とは何か 現在の貧困 アジアの貧困	「貧困」の内容把握をする 段落毎に要旨をまとめる どんな指標を使っているか	「貧困」(西川潤著) 岩波ブックレット
10月	世界の貧困 貧困と開発	本文中の表(資料を)読む 貧困の基準値を覚える	
	世界経済について 考える	貿易ゲームを通じて、開発途上国の生産競争 での困難さを知る	貿易ゲーム (開発教育協議会)
11月	国際協力について 考える(次頁の詳細)	具体的な日本の協力について知る (ケニアでの日本の援助について、海外研修 での体験を報告する。)	高校教師海外研修 現地視察資料
12月	各自、地球的課題を調 査する	現在の地球的課題について「特集」を参照に 調べる。	「国際協力」誌 (編集発行:国際協力 事業団)
1月	各課題について発表す る	研究成果を発表する	

⑧ 「国際協力について考える」(ケニア研修報告) 授業実践報告

時間・サブテーマ	実施内容	使用した教材	
1 限	ケニアの気候、風土につい て知る	地図バズルで位置の確認をし、地図上の世界 観の前提をつくる。 航路を確認させ、旧宗主国との関係を知る。 写真を見ながら、その気候、植生に気づかせる。	地図バズル 風景写真 ナイロビ市街、市中の人々、 幹線道路、国立公園など
2 限	自然・社会的観点から ケニアを捉える。	4つの最悪といわれるケニアの現状を砂漠化、 奴隷貿易、植民地支配、感染症の視点で考える。 導入として、駐在大使青木氏の談話を利用する。	ビデオ教材 青木大使表敬訪問 アフリカの心 (岩波ジュニア新書)
3 限	日本の協力現場を見る	国立感染症研究所の医療プロジェクトについ て説明する。 理数科教員協力隊員の生活 NGOマトマイニ養護施設の取り組み	ビデオ教材(エイズ検査試薬 見学風景) (5分) 新聞記事等

イメージ

どんな国だと思いですか。

ケニアと聞いて連想する言葉を教えてください。

シマウマやライオン、トラ、ゾウ、キリンが草原を走り回っている国。何か動物園、サファリという言葉が出て来そうですね。

イメージ通りですか。

ダチョウの山 (スワヒリ語でケニアの語源)

人口 3,314万人 (推定)

面積 58万平方km

日本の1.5倍

首都 ナイロビ

人口 213万人 (116万人という説もある)

写真Aグループ

①シマウマ1背景 ナクル湖

②シマウマ2背景 ナイロビ園

(必ず、2枚見せること。)

※長草草原=サバンナのイメージが出てくるか。



①



②

ケニアの位置

さあ、じゃケニアは何処にあるんでしょうね。

アフリカ大陸。この辺まではみんな知ってるけど。もう少し正確に話をしましょう。

それでは、ここで小学生に戻って少し作業をしましょう。地図パズルです。

ここに、5大陸に分けたパズル式の地図があります。でも、それでは簡単すぎるので、少し細かく分けました。世界地図を完成させてください。日本の位置も注意してください。

地図を見てください。イギリス経由で、アフリカ中央部、ケニアまで行きました。距離はロンドンまで10,000^{km}、ロンドン-ケニア間6,000^{km}、大体16,000^{km}です。日本から、飛行機で、ロンドンまで13時間です。

ロンドンからケニアの首都ナイロビまで9時間の飛行機の旅です。

何故、こういう行方をすると思いますか。最短コースは、こうやって(地図を指し示し)中国の北京・インドのニューデリーの上を飛ぶコースです。最短航路

地図パズル

世界地図をヨーロッパ・アジア・インド・アラビア半島・朝鮮半島・日本ぐらゐに切っておく

活動内容 ①配置する

②赤道を入れる。

北極から、赤道まで10,000km

赤道一周4万km。

グループ毎でやる方がリラックスしてできる。位置を知ることは、世界観を作る基礎となる。名前を覚えることは親近感をもつ一歩。

その他の作業例

- ・白紙に世界地図を描かせる
- ・白地図に記入させる
- ・アフリカ大陸の国別の地図パズル

いろんな地図

正距方位図法を示し、距離が測れる地図も紹介する。航空機の時代の地図である。

北京・ニューデリー・カラチ・ナイロビがほぼ最短で

は11,000*_hです。

イギリスのロンドンへ寄ってから行くのは遠回りです。さて、どうしてでしょう。....

答えは簡単です。ケニア行きの飛行機はここから毎日出発しているから便利なのです。

飛行機の路線は、人や物が頻繁に往来しているところ、つまり輸出輸入が盛んな国と国との間を結んで飛びます。(逆に北京～インドは飛行航路になっていない)

飛行代も安いです。7万円位で往復できます。運賃は距離が遠くても、利用する人が多いと安くなります。だからイギリスのロンドンからケニアの首都ナイロビ便が毎日あるということは、イギリスとケニアは毎日運ぶモノがあり、関係が深いということです。何故イギリスなのかこの理由は後でお話します。

ケニアの気候

さあ、地図の中に赤道を記入しましょう。

ケニアの位置は、赤道直下、アフリカのと真ん中にあたります。これが、赤道証明書です。

私が、赤道へ行ったという証明書です。すごいでしょこれ。実は、土産物屋さんで500シル(約750円)で、証明書を発行しているのです。なかなか、ケニア人も商売上手です。一緒に行った人達はみんな買いました。

赤道証明書

赤道直下と聞けば、汗がタラタラ、そんな熱帯のイメージですよね。ところが、いってみると涼しくて快適。それどころかホテルのロビーでは朝夕には暖炉が燃えています。

赤道付近でも涼しい地域があります。高山気候です。ケニアの首都ナイロビは海拔1,700_hの高原です。不快指数0。気温は日中で22度程度、長袖シャツで過ごせます。でも何故か、現地の方は冬物のスーツに生徒達はセーターを着ていました。

高原というと原っぱのようですね。見渡す限り360度周りは原っぱ。原っぱの真ん中に人口100人の都市、10*_h四方の街があるんです。

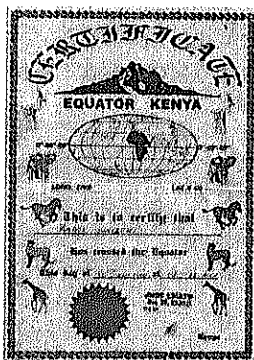
写真③を見てください。

あることが一目瞭然。

飛行機の巡航速度は800km/hから1000km/h

利用者が多いと運賃は安いです。

大量に作ると、1つあたりの単価が安くなるのとおなじ仕組み。



赤道は、気温のイメージがわかる。

赤道訪問証明書

これを最初から売りつけない。

赤道上では、水はどう落ちるか。という実験を見せる。

北半球は、時計回り、南半球は逆である。

さて赤道では。

正確な地図帳があれば、ビクトリア湖＝ナイル川の源泉、地形図であればリフトバレーも説明しておくこと。

ナイロビは海拔1,700_hの高原都市

現地では、この時期(8月)は太陽が見かけ上、北にあるため冬にあたり、亜熱帯高圧帯に入るため乾期となる。

気温は100m上昇すると0.55度下がる(気温の遞減率)

草原の向こうにナイロビのビル群が見えますか。
袋から写真B③・④を出してください。

近代都市ナイロビ

写真③、④をみると大きな近代都市だということがわかります。

こういう町、大きな都市ですから、何でも売っています。大きなショッピングセンターもあります。研修中はホテル住まいで、生活の不自由はありません。

ケニアの風土病

しかし、高原といえども、熱帯ですから風土病、いわゆる感染症は何でもあります。

南北アメリカに比べて、アフリカは早くから発見されているのに、探検家さえもあまり行こうとしなかったのは、蚊とマラリア、黄熱病、デング熱が蔓延していたからといわれています。

事前研修では、特にマラリアの感染に気をつけるよう注意されました。現在では抗マラリア剤（キニーネ）という薬が開発されています。かかっても高熱が3日ぐらい出るだけで、薬さえ飲めば、滅多に死ぬことなく、10日ぐらいで完治するそうです。

しかし、蚊に刺されるだけで感染しますから、団全員が殺虫剤と蚊取り線香・防虫スプレー、蚊が嫌いな白い靴下まで持って行きました。

食あたりも心配でした。生モノ・生水は一切ダメと

緯度的（赤道直下）には熱帯雨林気候であるが、実際は高原サバナ気候である。雨季と乾季が極端にあり植物は一般的に生育しにくい。

ナイロビの語源はマサイ語で「さわやかな水」といわれるほど、特別ケニア国内では水の得やすい地域。

写真B

③ナイロビ市内（JICAビルからの望む）、ビルが林立している

④ナイロビ市内からサハラ草原をみると地平線がかすんでいる

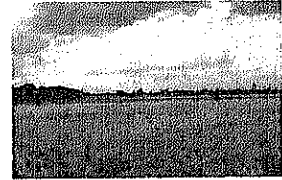
④' ナイロビ国立公園からみるナイロビのビル



③



④



④'

私はコレラの予防接種をして出発した。本当は黄熱病がいいが関西空港検疫所で指定日しか接種できない。他にはマラリア、肝炎、狂犬病、など。イエローカード（＝その国に入国するために必要な予防接種というのがあり、その接種を済ませたという証明書）は今回いらなかった。

ナイロビ市内には大きな病院もあり医療もお金さえ用意すれば最高水準で受けられる。

ホテルの部屋のベッドの上には蚊帳が吊されていた。初日は蚊帳の中にはいり、耳元で聞こえる蚊の羽音で何度も目を覚ませながら蚊取り線香のくすぶる中で寝た。しばらくは研修から帰るとまず殺虫スプレー・蚊取り線香に火をつけることが日課であった。

聞かされており、現地では、毎日ペットボトルを支給されました。これは、中国旅行でも一緒でした。ところが、ホテルの朝食では、生ハム・生ジュースやレタスがだされています。食べたくてしようがありませんでした。ホテルは、絶対大丈夫という人と信用できないという人とありました。

食事は、街にいれば、数件日本食レストランもあります。私たちも一度だけ行きました。普段はいわゆる洋食です。シマウマ・ダチョウ・ワニ何でも食べさせるカーニバルという名のレストランは観光客に人気があるそうです。

マラリアの感染源であるハマダラ蚊も気温の低い8月はナイロビ市内にはほとんどいないらしい。私たち以外のホテルの宿泊客は全く無防備であった。

★生徒の反応と授業後の所感★

- 視聴覚機器のない普通教室でも、投げ入れ教材として、実施してみた。その際、写真も数人のグループ毎に見ることができるように、コピーを利用した。
- 地図パズルについては、簡単なものから少し難しいものまで、用意してみた。案外世界の大陸の位置でさえも理解できていない生徒もあり、ケニアの位置を指し示す生徒は皆無に近かった。
- 授業後、シマウマの縞はこんなになっていたのかと言う声が上がった。早速、別のクラスの導入でシマウマの縞を描かせると正解は少ない。シマという言葉でわかったような気になっている知識の不確かさを確認した。私たちが、アフリカという言葉にもつステレオタイプの理解を今回の授業で少しでも崩すことができればと思う。

今日の課題

さて、少しケニアの社会情勢について報告します。初日の研修で在ケニアの日本大使館に行きました。駐在の青木盛久日本大使は、ケニアは、4つの災厄をもっていると説明してくれました。

- 1 温暖化の影響をもろに受けていること。
- 2 奴隷貿易と植民地の犠牲になったこと
- 3 経済不況と失業
- 4 エイズの蔓延です。

少し、固い話になります。できるだけわかりやすく話してみます。3カ所わからないことがでてきたら、途中でいいですから声を上げるか、手を挙げてください。1カ所の場合は途中でわかってくる場合がありますから。我慢して続けて聞いていてください。さて本題に入りましょう。

青木大使のいうケニアの災厄

▼食糧自給の難しさ

1つめは、「地球の温暖化」、これにより、草原が全世界的に砂漠化している。特にアフリカでは草原だけでなく、耕地も砂漠化しています。世界中で温暖化の一番影響の受けている地域です。

アフリカは赤道付近の一部を除いて、雨が極端に降らない場所、そして降らない時期があります。

ケニアも雨季と乾季があります。こういうところは、農業がしにくい。ということは食糧自給が難しい。だから、家畜を飼って乳を栄養にします。一カ所では家畜の草が足りない。だから、移動しながら生活をします。これを遊牧といいます。しかし、遊牧も自然に生える草にたよっていますから、降水量が少なくなり、気温が高いと草が生えず、家畜が死んでしまいます。

遊牧をしないで、定住しようとするともっと大変です。村落の近くの井戸やわき水が涸れ、毎日の生活する水が家の近くになくなってしまいます。2^{キロ}〜10^{キロ}ぐらい遠くまで水をくみに行かなければなりません。

食事の用意に火は欠かせません。そのためには薪炭

青木盛久氏はフィリピン・ベトナム・ペルーなどの開発途上国でも勤務が長い。特にペルー人質籠城事件は有名。

教育に期待感を持っており、日本大使館での夕食に招待された。

大使館は、館と言いましたが、1戸建てではなく、市内のビルのワンフロアを貸切っていた。もちろん1階の入り口と、そのフロア9階の入口には、警備の警官がいる。館でないのは警備上の理由かららしい。

降水量の少ないところから温暖化の影響を受ける。このあたりは、雨季と乾季があり、乾季が長いとほとんどの作物は枯れ果ててしまう。ナイロビの北東部は半砂漠地帯が広がる。

今日の砂漠化の原因

人間が増えると、薪炭に木を集める。木を集めすぎると、そこに家畜が入る。家畜が入ると、いったん家畜が殖えるが、家畜が殖えると、草原を根こそぎ食べる。人間も家畜も生活できない。

がいます。これも家の近くから使い始めるので、平均5キロぐらいの範囲で薪になりそうな小枝を集めに廻らなければなりません。

ケニアに行く前は、サハラ砂漠南縁（サヘル地域）の周辺のステップ地域気候帯が砂漠化していると思っていましたが、ケニアのような雨季と乾季のあるサバナ気候帯でも、地域の地形によって、大きく差が出てくることを実感しました。ナイロビ近郊でも、半砂漠、サバナの草原、ラトソルの土壌がむき出しになったところ、大地溝帯の緑の林など、いろんな光景を目にしました。

写真C マサイ族の遊牧風景他

研修中、4車線道路の真ん中を50頭ぐらいの牛を運んだマサイの家族に出会いました。最近、水不足で、ナイロビ付近にマサイ族の牛がやってきて、トラブルが絶えないそうです。

▼歴史的背景

2つは、「奴隷貿易と植民地化」です。歴史に触れます。

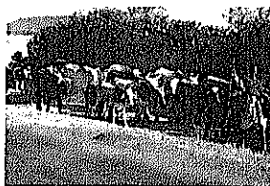
16世紀から奴隷貿易により社会の担い手になるべき若者が、300年にわたりアメリカ大陸に連れ去られ続けました。そしてようやく、19世紀には奴隷貿易が最終段階を迎えますが、やがて植民地化が始まります。

ケニアのナイロビ周辺は気候の良さが災いして19世紀半ばホワイトハイランドと呼ばれるほどに、イギリスからの多くの移民がやってきました。

そしてコーヒーやお茶のプランテーション農業が発達し、少ない肥沃な農地を独占してしまいました。イギリス人所有の農園で、ケニアの人々は農奴として働くようになり、教育も受けることができず愚民政策の

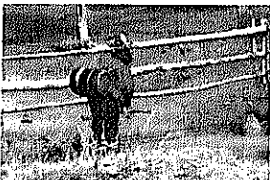
写真C

⑤マサイ族の遊牧風景



⑥

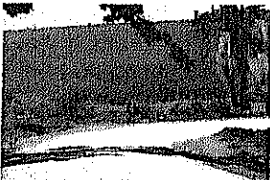
水汲み風景



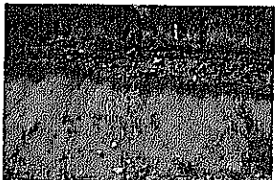
茶畑・谷合の村



大地溝帯



ラトソル



熱帯の土壌はレンガの材料になるラトソルも多い。

大地溝帯で先月発見された人骨化石が600万年前のものと最近報じられている。

16世紀のイメージ

日本での戦国時代そして江戸時代の終わりまで奴隷貿易が続いた。

1518年～1865年までの350年間に1,500万人が連れ出された。

航海中に5,000万～6,000万人が亡くなったといわれる。

1500年の半ば、日本に鉄砲が伝来したが、同じ頃、アフリカにも鉄砲が入った。部族間抗争の一方に、人間と引き替えに鉄砲を売ることがまず始まった。その後は、アメリカ大陸に大量に労働力が必要になり、奴隷が商品として高く売れ貿易が大規模化していく。

中におかれまして。

もう少し、植民地政策を詳しく説明すると、次のようになります。植民地政策の基本は人頭税と強制労働です。アフリカ大陸搾取のもっとも有効な手段でした。

人頭税とはアフリカ人一人に対して課せられた税金のことです。ヨーロッパの貨幣によって納入することを義務づけられました。ヨーロッパの貨幣で税金を納めるためには現地のアフリカ人は、ヨーロッパ人が買ってくれる換金作物、例えば、落花生、ヤシ油、ココア、コーヒー、ゴムなどを肥沃な耕地で第一番に耕作せざるをえなくなりました。また、それでも足りなければ、イギリス人の農園（プランテーション農場）で働くことを余儀なくされました。こうして生産された農作物をヨーロッパに運ぶために、内陸部から港に運搬する道路が必要になります。この道路建設のために成人一人につき、1年に2週間から一ヶ月の強制労働が義務づけられました。道路網の整備は現地の人の血と汗の苦役によってあがなわれたものです。道路工事とは別に白人所有の農園・鉱山にもかりだされました。拒否すれば、警察に連行され、刑務所に収容、拷問にかけられました。

（土屋哲『アフリカのこころ』岩波ジュニア新書
1989年P51より）

その結果、アフリカの国々は1960年代に独立しましたが、発達していたプランテーション農業によるコーヒーなどの特定産物を売ると外貨が稼げますから、それだけをつくる農業が独立後も発展しました。政府は農園からあがるお金で、公共投資をします（道路・ダム・電気・水道）。こういう換金作物に頼った経済をモノカルチャー経済といいます。

ところが、働いていた農民にとって、農園主がイギリス人からケニア政府や政府高官に変わっただけで生活が豊かになりませんから、購買力がありませんから消費財も売れない。売れないものは誰も作りませんから、工業がなかなか発達していきません。それでも、少しずつ豊かになって、国民に工業製品を買う購買力ができてきて、少し工業製品も作れるようになったと思ったら自国の工業製品よりも、安いモノがアジアか

1885年ベルリン会議（別名アフリカ分割会議）

ヨーロッパ人のアフリカ内陸部侵略に合法性をもたせた。この会議で、宗主国が勢力範囲をお互い追認し、それを植民地の境界線とした。

例えば、マサイ族はケニアとタンダニア、ソマリア族はケニアとソマリアなど。

至る所ユーカリが植林されている。

ユーカリはオーストラリアのコアラが食べるので有名。

イギリス人が好んで植樹しており、ロンドン郊外と見間違ふような景観もある。

白人の持っていた農場は独立直後に、政府が強制収用したり買い上げた。（いわゆる土地改革）

モノカルチャー経済（単一作物）では不況に弱い。先進工業国の購買力が下がると買い付けの値段が下がり、大打撃を受ける。

工業化はアジアが先行

「ケニアの落日 上・下」朝日新聞8/17、18付

ら流れ込んできたのです。

アジアより工業化が遅れたてしまいました。

その結果、現代ではどの地域よりも経済不況に悩み失業者が市中に蔓延しています。そして、治安が極端に悪化しています。

これが、3つめの災厄です。

▼経済不況・失業そして治安の悪化

写真を見て下さい。

写真D

現実是不況で失業者は町にあふれ、水も電気もないスラムに住む人々は40万人を越えるといわれています。

ナイロビ市内は治安が悪くなっています。ガードマンに守られた塙の内側のみ、外国人や高所得者には安全が確保されています。大学もマーケットも、ホテルもビジネスビルも、あらゆる場所は、必ず銃を携えたガードマンが出入り口を管理しています。実は、ナイロビ市内では、どこもかしこも塙の内外に二分されています。

この研修でもっともきつく注意されたことは、一歩もホテルを出てはいけないということでした。2週間の研修のすべてが軟禁状態でホテルから勝手に出ることは許されず、外に出るときは必ず先導者付きの車で移動していました。市街地を離れても、道沿いで車を降りて休憩というわけにはいかず、現地の人と話できたのは、研修地と必ず信用のおける塙のあるレストランか土産物屋さんでした。

日本人も強盗・ひったくりにあっています。

▼感染症対策と医療制度・公衆衛生

4つめは、エイズに代表される感染症です。

特にエイズは感染者が国民の15%を越えています。

感染症対策と医療制度・公衆衛生の取組みの遅れが目立ちます。エイズだけでなくマラリア・結核治療などの医療対策が急務なのです。

以上が、青木大使の指摘した4つの災厄です。

スラム（不良住宅）

水は20ℓボトルで買う。

電気は盗む。

最近では停電が多い。水力発電で水が少ない。水不足

治安が悪く公園を一步も歩けない。

写真D

- ⑦スラム全景
- ⑧道路の物売り
- ⑨ガードマン
- ⑩ケニアのビル街



⑦



⑧



⑨



⑩

.....

温暖化・植民地政策の残滓、経済不況と治安回復・
感染症対策、それぞれが今日のケニアの課題といつて
も差し支えありません。

★生徒の感想と授業後の所感★

- 比して日本の植生は豊かであること。地球の温暖化の現象を半乾燥地域ですぐに受けること。食糧確保、農業振興が日本のように化学肥料や機械の投入で飛躍的にのびるような自然条件でないこと、工業化が遅れたことの原因が奴隷貿易、植民地政策に遡ることを理解させたい。
- 理解して欲しいことが多くあり、講義形式の一方的な授業形態となったことが反省である。

第8回 国際協力の現状

国際協力

さて、これらの課題に日本から国際協力がなされています。実は、私がケニアに行った目的は協力現場をこの目で視察することだったのです。

日本政府は、今年も8月2日に政府開発援助（ODA）の重点国にフィリピン、ペルーに続き、ケニアをあげて、無償援助の続投と感染症対策（マラリアなど）を中心に援助を続けると発表しています。ちょうど、私たちがケニアにいるときで、ホテルのテレビでこのニュースを見ました。

視察場所の一つは、この感染症対策援助の現場だったのです。

ケニア国立感染症研究所というところを訪問しました。現在、多くの日本人専門員が派遣されています。

現地スタッフと協力して、今年やっと、エイズ感染の検査薬とマラリアの特効薬がケニア国内で特許出願、生産認可生産されるまでになりました。

写真E

エイズであるかないかの検査に使う簡易試薬は、当然、すでに先進国で開発されています。

そしてケニアにも輸入されています。しかし、検査費用は原則本人負担ですから、高額で誰も検査しようとはしません。ですから症状が末期になって発見されるのです。軽度のうちに発見できれば、対処策もあります。本人の自覚がなければ、他への感染を予防はできません。

この写真の検査方法でやっと、50ケニアシル＝約70円で生産できるようになるそうです。（平均賃金は日当150シル＝約210円）

マラリアの特効薬キニーネも輸入製品はケニア国民には高すぎます。また、現地生産は技術的には難しくないのでありますが、特許の問題があって、安くは生産販売できません。

キニーネは先進国では20年以上前に発見、抗マラリアの特効薬として知られているのに開発途上国では

援助には無償援助と円借款（貸し出し）がある。無償援助の実施はJICA、円借款は国際協力銀行です。

JICA事業はパンフレットを利用した。プロジェクト援助や青年海外協力隊なども募集している。最近シニア隊員を募集している

BS放送で毎日、日本のNHKの番組を見ることができる。

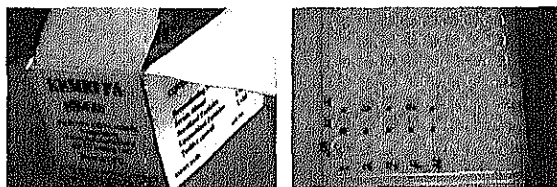
ケニア国立感染症研究所では、マラリア、肝炎治療の現地製薬特許、エイズ検査試薬開発・システムづくりが研究課題である。

問題はAIDSと発見されても、これ又、治療薬が高額で治療できないこと。

治療を受けないとエイズ感染は発病後2～3年で死亡する。

写真E ①エイズ検査薬

②検査のされた血液



①

②

輸入製品では高額のため、被験者を増やすことができなかった。

キニーネはマラリアの特効薬として先進国では簡単に入手できる

杉浦医師のビデオ

乳児死亡率ケニア59/1,000人

日本4

高価すぎて、庶民の手に届かず、多くの幼児が死亡しているのが現状です。

今、やっと、ケニア産の材料で同じ成分を抽出することに成功したそうです。

これがそうです。写真F

上記の感染症研究所、そして医師や保健婦を育成するためのケニア医療技術専門学校も見学しました。ちょうど準医師・看護婦・看護師の資格取得をめざす若者に会いました。エイズ感染・治安悪化など暗い現状ですが、若者の笑顔に会うとほっとしました。未来をになう若者の持つエネルギーが、心に届くのでしょうか。

日本から多くの専門職（医師、看護婦、大学教授）の方がケニアに手助けに来ていました。

大学を定年退官し、尚、情熱を捨てずケニアにやってきた先生もおられました。

その意欲には頭が下がります。

私の職場である教育現場についても少し報告します。教育は、モイ大統領の基本政策です。

教育の向上と工業化は一体の政策だと考えられています。

1990年より、現在の8・4・4制を採用しています。プライマリー8年（小・中学校にあたります）、セカンダリー4年、カレッジ4年（大学）です。セカンダリー進学率35%、大学の進学率は、同学年人口比では7%程度です。

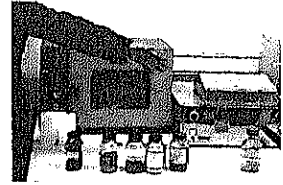
現在、プライマリーは就学率76%です。政府は2005年に100%とし、義務教育制度を完成して基礎学力のある国民を育成し、2015年に工業立国をめざ

写真F ⑬マラリア最終製品

⑭マラリアのナイロビ製剤過程



⑬



⑭



準医師

大学医学部卒の医師は、ほとんどが大病院の勤務が海外で働き、国内の特に地方医療には携わらない。海外に出た者は、ハランベという習慣で、出身地や親類縁者に外貨を送金するため、政府もこの頭脳流出に暗黙の了解をしている。

地方医療は、医療技術専門学校を卒業する準医師資格者と看護婦が担う。

看護婦は保健婦・助産婦も行う。

医師一人あたり人口

ケニア 10,150人

日本 910人

小学校4年生から英語が共通語となる。

大学の授業料日本円で5～6万円

ハランベで入学する学生も多い。

初代大統領ケニヤッタ

2代目モイ大統領

ニョイズム (follow the footsteps)

平和 共同体の平和

愛 愛国心

統一 国の統一

共同体秩序の保持が最優先

部族共同体の倫理・部族主義

アフリカ型社会主義

しています。

各課程を修了する時は全国統一の終了テストが実施され、その成績が上級課程への入学試験を兼ねています。不況の折り、冗談に聞こえますがウェイトレスに就くにも、この成績がものをいうらしい。ですから、非常に勉強熱心です。

一番の驚きは、小学校4年生から始まる英語教育の徹底です。何故でしょう。イギリスの植民地であったという歴史があったとしても何故スワヒリ語でないのでしょうか。実はスワヒリ語もアフリカ統一機構が共通言語と認めたものの、実際はスワヒリ語を話せない部族もある。そこで、ケニアでは、英語を共通語とする政策を採った訳です。

そんな訳で、小学校4年より教科書はすべてイギリスのものを採用し、当然英語で書かれています。

さて、日本から行っている青年海外協力隊員を紹介します。彼らは、セカンダリーに理数科教員としてやって来ていました。狭い宿舎でがんばっています。写真G

■ナイロビ最後の研修地

NGOの経営する養護施設です。ここでのお話が実は一番、この研修旅行でホッとさせる説明のような気がしています。ナイロビ市のはずれでマクエイニ地区というところにありました。農作業と機織り・陶芸を基礎にした就労指導と、いわゆる孤児の養護施設です。子ども達はここから地区の小学校と中学校に通います。

ここで20年活動を続ける菊本照子さんからお話を伺いました。10年を経て、菊本さんたちは今年、養護施設の活動だけでなくスラムに出かけて、学校づくりの援助を始めているそうです。

写真H

「スラムに住む親たちと議論し、親たちと共同でトタン屋根の学校を建てました。子ども達が勉強をはじめると、大人達は変わります。学校を建てることができスラムはリーダーもおり、きちんとした共同体ができあがっています。共同体のあるスラム（不良住宅・不法占拠地）は、市内の目抜き通りより安全です。共同体がしっかりしているところは安全なのです。生きる意欲を掘り起こし、共同体をつくること。このことからすべては始まります」という説明でした。

初等学校就学率 80%

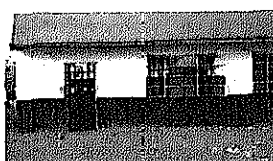
初等学校卒業率 45%

写真G

⑮ 宿舎風景

⑯ 教室の中の生徒

⑰ 校庭で遊ぶ生徒



⑮



⑯



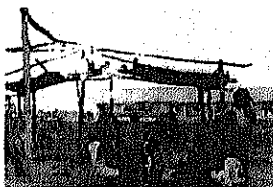
⑰

写真H

⑱ トタン屋根のないスラムの学校

⑲ 机作りの風景

⑳ 勉強する子ども



⑱



⑲



⑳

何故、日本を含め先進国とよばれる国々は、援助を続けるのか。

それは、貿易ゲームに見られる、世界経済の仕組みの中にある矛盾の是正と社会的公平あるいは生存権の思想である。

■まとめにかえて

軟禁生活は本当に気が滅入りましたが、救いはやはり大自然でした。ナイロビ国立公園に入ると180度視界に飛び込む大草原。駆けていくシマウマ。集まってくる大猿。木に見え隠れするキリンの親子。インパラをねらう瘦せたライオン。

何も考えず自然だけを眺めていると、心が洗われるという表現がぴったりで、ストレスが体から抜け出ていく気がします。ここだけ時間が止まっている気がします。

でも、やっぱりナイロビ国立公園にも現実があります。

写真④で見たように、20^{km}四方ある公園の1方には巨大なビルが林立しているのが現実です。草原の彼方にあるビル群は異様でした。

そしてあのビル群には、今ナイロビの人々は塙に隔てられ、人間が2分されて生活しています。……

目の前の道が歩けないのです。ビルの眼下に広がる公園が一步も歩けない。ケニアが塙の内外の2つに分けられてしまっています。ケニアの中が先進国と開発途上国の人間に分けられているのです。マラリアにかかっても特効薬が飲める人と何の手だてもなく高熱に浮かされながら死にゆく人と持つ者と持たざる者。

工業化、そして開発。すべては人が心地よく生きていくための方策です。しかし、開発によって引き起こされた貧富の差がつくれ、塙の内外が作られました。この集団を2分する疎外感は塙の中にいる私でさえ我慢しきれものではありません。塙のそとにいるものにとってはなおのことだと思います。

人が心地よく生きていくために、「共同体を作ること」しか解決法がないと思います。

共に同世代を生きていく人間として、開発の援助と共に、「共同体」の模索がなによりも重要ではないでしょうか。

先進国の私たちが享受できることは、当然同時代を生きる世界中のどこにいても、享受できるべきである。

私は、障害児通園施設建設の運動に10年余り関わってきた。

10数年前、私の住むW市で発見された情緒あるいは知的障害をもつ乳幼児には検診制度があったが、障害が発見されても有効な手だては、行政的にほとんどなかった。ところが、隣のM町の子どもは、少しでも障害を軽減するためにすぐに通園しての療育は受けられることになっていた。行政制度・組織・その対応の違いに驚き、日本でも全く同じ行政サービスが、いつでも何処でも用意されていると思うのは間違いだということを知った。制度に取り残される疎外感には、憤りさえ感じたことを覚えている。

しかし、運動を通じて、行政サービスもそこに住む人々が必要としなければ、また役に立たないことも知った。

スラムの学校と同じである。お仕着せの学校建設では、援助が終わると、何もかも終わる。

共同体が動き出すこと。そして世界中何処で住んでも子ども達の生きる力を育むことが、その共同体の務めだとあらためて今感じている。

★生徒の感想と授業後の所感★

- 授業では、感染症のマラリア、エイズについての対策について時間を割いた。
- 学校での授業風景、校舎、などから電気がないこと、すべてが英語での授業であることなどに驚きの声が上がった。
- ここに記載はしなかったが、交通、服装、宗教などのタイトルでケニア社会の全体を紹介する授業展開も実施したのは好評であった。

写真一覧

写真Aグループ

- ①シマウマ1背景：ナクル湖
- ②シマウマ2背景：ナイロビ園

写真B

- ③ナイロビ市内（JICAビルから望む）
ビルが林立している
- ④ナイロビ市内からサハラ草原をみると地平線がかすんでいる

写真C

- ⑤マサイ族の遊牧風景
- ⑥水汲み風景
大地溝帯
茶畑
ラトソル

写真D

- ⑦スラム全景
- ⑧道路の物売り
- ⑨ガードマンに守られたショッピングセンター
- ⑩ケニアのビル街

写真E

- ⑪エイズ検査薬
- ⑫検査のされた血液

写真F

- ⑬抗マラリア剤の製造過程
- ⑭ナイロビ製抗マラリア剤

写真G

- ⑮宿舎風景
- ⑯教室の中の生徒たち
- ⑰校庭で遊ぶ児童

写真H

- ⑱トタン屋根のないスラムの学校
- ⑲机作りの風景
- ⑳勉強する子ども

※付記

授業展開を整理するために、すべてを台詞化してみた。実践教科は地域研究と投入教材として、1年現代社会、3年地理で実施した。講演として、教職員研修、地域の社会福祉協議会主催の会合で行ったものも一部加筆した。

「まとめにかえて」の部分は、授業でなく地域の講演用に加筆したものである。



自主作成英語教材

“Thailand Through My Eyes”

MIWA SAKAKIBARA

榊原 美和

外国語（英語）

広島県立御調高等学校

1 カリキュラム案

(1) 実践の目的

① 英語を読むことを通して、「私」という一人の人間がタイ研修旅行で見たこと、聞いたこと、感じたことなどを生徒に伝え、その中で、生徒が様々な問題について考えたり、自国の文化とタイの文化を比較したり、国際協力について考えたりできるきっかけにする。

② 生徒に、身近な人物の書いた英文の体験記を読むことを通して、普段使っている教科書とは違った興味、関心を持たせる。

(2) 授業の構成案

時限	テーマ・ねらい	方法・内容
1	Part1 : The chance to go to Thailand 著者が昨年御調高校に赴任してから、タイ研修旅行に参加するまでの経緯を知らせる。	タイ研修を通しての体験を英文を通して理解させる。その際補助教材として写真を利用する。 設問1「あなたが行ってみたい国はどこですか」
2	Part2 : Japan I met in Thailand タイにおいて日本製品が氾濫し、日本文化の一つとしてのTV番組が放送されている現状を知らせる。	同上 設問2「その他に、日本がタイ（東南アジアの国々）へ輸出しているものがありますか」
3	Part3 : “Have you eaten yet?” タイの日常の挨拶と日本の日常の挨拶から、それに見られる文化の違いに気づかせる。	同上 設問3「私たちが日本でよく使う挨拶で、日本文化的なものを取り入れているものと言えば、この他にどんなものがありますか」
4	Part4 : Japan on the map 地図に見られる世界の国々のある位置の違いに気づかせる。	同上 設問4「私たちが普段よく見る地図は、なぜ日本が真中に描いてあるのでしょうか」
5	Part5 : Nice meetings at some schools タイでの子どもたちとの出会いを通して、筆者が感じたことを読み取らせる。	同上 設問5「あなたがもし英語が得意でなく、恥ずかしがりやであったとしても、タイの子どもたちのように、外国人に話しかけようと試みますか」

時限	テーマ(教材)	方法/内容
8	Part6 : The education of Japanese language タイの日本語教育の現状を知らせると同時に、なぜ日本語を学ぶ人が増えてきているのかその理由を考えさせる。	同上 設問6 (1)「なぜ、タイの人たちにとって日本はあこがれの国なのでしょう」 6 (2)「タイの人たちが日本語を勉強する目的はどんなものだと思いますか」
9	Part7 : School education in Thailand タイの学校教育の現状を知らせると同時に、生徒自身の意識を見直させる。	同上 設問7「あなたは今、両親や、勉強できる環境に対してどんな気持ちを持っていますか」
10	Part8 : "Teacher's Day" タイの人々の持つ礼儀正しさ、目上の人に対して敬意を払う様子を見て、筆者が感じたことを伝える。	同上 設問8「タイの子どもたちの態度や、『先生の日』というものについてあなたはどのように思いますか」
11	Part9 : People living on the boat~the gap between the rich and the poor ~ タイの一つの生活様式について知らせると同時に、タイの経済状況、貧富の差について知らせる。	同上 設問9「本文を読んで感想を書きなさい」
12		
13	Part10 : What I thought about international cooperation through this tour 国際協力の一部分について知らせると同時に、私たちには何ができるか考えさせる。	同上 設問10 (1)「国際協力とはどんなものだと思っていましたか」 10 (2)「私たちは何を必要があると思いますか」 10 (3)「国際協力として私たちに何ができると思いますか」 10 (4)「なぜ私たちは他国へ国際協力をする必要があると思いますか」
14		
15		
16	まとめ この教材を読んで感じたことや考えたことをまとめさせる。	①タイで撮影したビデオの視聴 ②この教材を通して学んだ日本とタイにおける生活、習慣、経済、教育の違いについて感じたことをまとめ、発表させる。 ③国際協力についてこれから考えていきたいことなどを話し合わせる

使用教材 (1) 自主作成テキスト「Thailand Through My Eyes」
(2) タイで撮影した写真・ビデオ、通貨、菓子など

実践の目的

今回の高校教師海外研修における様々な体験を通して、目の前にいる生徒に何が出来るか、何を伝えていくことが必要なのかを考えたとき、まず、他国の現状を知らせることだと感じた。

次に、授業を実践する場について考えた。教員になって2年目で、まだ担任をしていないので、LHRでの実践は難しい。社会科の教員とのチームティーチング(以下T.T.)も考えたが、ただ私が行ったタイにつ

いての情報を伝えるだけになりそうだと感じた。

そこで、自分の担当教科である英語を通して、できるだけたくさんの生徒に伝えたいという思いが、どうしても離れなかったこともあり、英語科の他の教員に相談し、学年を統一してできるように、自分で英語教材を作ることにし、それを英語科の教員と連携して実施することとした。

自主作成テキストを使うことで、英語を読むことを通して、「私」という一人の人間がタイ研修で見たこ

と、聞いたこと、感じたことなどを生徒に伝え、その中で、生徒が様々な問題について考えたり、自国の文化とタイの文化を比較したり、国際協力について考えたりするきっかけにしたいと思った。

また、英語嫌いの生徒が多い中、身近な人物の書いた英文の体験記を読ませることによって、普段使っている教科書とは違った興味、関心を持たせ、さらに英語への興味を持たせるといった動機づけをしたいと思った。

3 実践の概要

- (1) 実践科目 英語 I
- (2) 時間数 16時間
- (3) 対象生徒・学年 1年生
(2クラスを4クラスで展開)
- (4) 対象人数 80名(20名×4クラス)

4 授業の構成

リーディング形式で、あまり難しい表現を使っていないので、内容把握に重点をおいてすすめてきた。

各パートは、私自身が気づき、驚き、うれしく思ったことや、タイの文化、現状、また日本の国際協力の現状をテーマに構成している。また、各パートに生徒それぞれに考えさせる問いを設け、授業中時間をとって書かせ、できるだけたくさんの生徒に発表させ、いろんな考えを聞く機会にした。

また、この教材は副教材として使用し、定期試験の範囲にも入れる予定にしている。

5 生徒の反応

各設問に、真剣に取り組んでいる様子がどのクラスでも見られる。その感想を見ると、特に設問1の「行ってみたい国とその理由」からは、欧米へのあこがれや興味、関心の強さが見受けられ、TVなどのメディアによる情報の与える影響の大きさを感じた。とは言っても、それぞれいろんな興味、関心を持っているということが把握できたので、今後はその興味、関心をもっと大きなものになるよう、また、英語などの外国語への興味につながるような指導をしていきたいと思う。

私が担当していない生徒からの反応も見られる。廊下ですれ違ったり、別の授業で教室に行った時に、いろんな生徒から「先生タイに行ったんじゃろ？よかった？」という声をかけられた。「自分も行ってみたい」という声を聞くと、実践の目的の一部が達成できた気がしてうれしく思った。

6 指導を通して感じていること

生徒の反応から、身近にいる人物の海外での一つの体験に関心を示してくれていることが大いに感じられ、また生徒に他文化や国際協力に対する関心を持たせるきっかけになったことをうれしく思う。他国の現状を知らせ、それによって、今後は生徒が自分自身で少しずつ考え、行動していってくれることを期待する。

7 今後の予定

現在、1年生でこの教材を使用しているが、今後は他学年での使用を考えている。そして最終的には全学年に、私の体験を伝え、国際理解、国際協力について考えていく機会にしたい。

この教材を終えた後は、教材を通して国際協力について考えたことを踏まえて、「国際協力シミュレーションゲーム」を実施する予定にしている。実際に国際協力を必要としている国の現状を目の前にして、生徒それぞれがどんな協力をしていくか、おもしろいアイデアが出ることを楽しみにしている。

その後、JICAの職員の方に講師をお願いし、このシミュレーションゲームでの生徒の国際協力についての講評と、実際の国際協力の現状についての講話をお願いしたいと考えている。

またこれを機会に、国際理解、国際協力に関する参加型学習の場を多く取り入れ、生徒に実際に体験を通して学び、広い視野を持つ人間に成長してほしい。

「総合的な学習の時間」導入に伴い、本校でも「まなびのとびら」という名称で生徒主体型の講座を展開している。その中には6つの講座があり、私が担当している「国際」という講座で、現在「カンボディアの現状と青年海外協力隊の活動について」というテーマで研究をすすめている生徒がいる。JICA中国国際センターの職員の方や、青年海外協力隊のOB・OGの方

にご協力いただきながら研究をすすめているところである。

その生徒自身も将来、青年海外協力隊として活動したいという夢を持っていること、カンボディアにおける地雷の被害の現状を調べ、自分にもできることはないかを考えたいという思いから、このテーマについて研究したいと言ってきた。彼女が生徒会長であるという立場を生かして、今後文化祭などで自分の研究をもとに、何らかの形で国際協力に関わりたいという思いを持っているので、私もこれからも支えていきたい。

こういった、世界の人々にも目を向けられる、視野

の広い生徒、また「自分にできることはないのか」という考えを持てる生徒を育てることを目標に、今後とも継続して指導していきたい。

教員になって2年目という、まだ国際理解教育、開発教育というものに対して、わからないことが多い状況でこの高校教師海外研修に参加させていただき、すべてがとても新鮮で、印象的だった。私にとって、こういった教育に対する取り組みはまだ始まったばかりである。自分自身が視野の広い人間でいられるよう、開発教育に関するセミナーなどに積極的に参加し、勉強していきたいと思う。

資料

〈考えてみよう〉

～生徒の感想より～

1) あなたが行ってみたい国はどこですか。またその理由は何ですか。

・オーストラリア

マナティーやイルカを見たい。
シドニーオリンピックがあったところだから、いろんな選手が活躍した大地に立ちたい。

シドニーなどの都市も見たいし、アボリジニの遺跡も見たい。

広いから。

コアラが見たい。(6)

珍しい動物を見たい。

オリンピックがあったからその後の町の様子が見たい。

・韓国

キムチが食べたい。

朝鮮のことをもっと知りたい。

・スウェーデン

オーロラが見てみたい。テレビでみたことがあるが、すごく迫力がありそうで、今すぐにも行きたい。

・アルプス (スイス)

ハイジに会いに行きたい。

遊牧民の生活を見てみたい。

すごくきれいな自然がありそうだから。

・ハリウッド (アメリカ)

ブラット・ピットに会いたい。

・イギリス (ロンドン)

以前から好きだったから行ってみたい。パディントンベアが住んでいたところだから。(2)

・オランダ

チューリップがきれいなところだから行ってみたい。

風車と、チューリップ畑が見たい。できることならそこに住みたい。

・フランス

理由は特にないが、フランス中を旅してみたい。(2) かわいらしいから。

美術館や宮殿に行ってみてみたいから。

おしゃれな町並みを絵におさめたいから。フランスをはじめ、いろんな国に行ってみてみたい姿を描きたいと思う。

芸術品を見たい。

・フランス (パリ)

有名な建物 (凱旋門など) を見てみたい。

・カナダ

ナイアガラを見てみたい。氷のすべり台を滑ってみたい。

きれいな国だから。

・アメリカ (ニューヨーク)

周りの風景、街が好きだから。いとこが住んでいるから。

・アメリカ

ロックンロールの本場であるアメリカに行って、ロックを極めて日本に帰る。

他に行きたい国がなかったから。

自由の女神が見たい。(2)

旅がしたいから。

NBAのゲームや選手を近くで見たい。ストリートバスケットもしてみたい。ファッションやスケボーとかいろいろ試してみたい。

自由な国というイメージがあるから。(2)

楽しそうだから。

・アメリカ (フロリダ)

本場のブラックバスを見たい。

・アメリカ (ラスベガス)

テレビで見てきれいだったから。

・エジプト

ピラミッドの中に入りたい。

ミイラが見たい。

ピラミッドが見てみたい。(2)

・国名は限定しない

他国の福祉、看護の現状を見て、勉強したい。

世界中の山を登りたい。

景色が美しく、人が少ないところ。

・中国

万里の長城に行って歩いてみたい。でも中国語がわからない。

・スペイン

好きなサッカーチームの試合が見たい。

スペインリーグがあってサッカーが盛んで強いから。自分はその少年時代サッカーをしたかった。

サッカーのスーパープレーヤーを間近で見たい。

・アラスカ

鮭をつりに行く。

・イタリア (ローマ)

サッカーを見たり、有名な建物を見に行きたい。

・イタリア

情熱の国だから。

サッカーを見に行きたい。

たくさんの建物を見たい。田舎の農村にも行ってみたい。

日本の裏側に行ってみてみたいから。

本場のイタリア料理を学びたい。

・イタリア (ボンベイ)

授業で習って、興味を持ったから。

・イタリア (ミラノ)

買い物をしたい。

・ブラジル

サッカーを見に行きたい。(2)

・ドイツ

医学について勉強してみたいから。

・アフリカ

野生動物の保護に取り組んでいる人に会ってみたいから。野生動物にも会いたい。

・オーストリア (ウィーン) かドイツ (ボン)

ドイツはベートーベンの生まれた町で、オーストリアはベートーベンが生きていた時代に音楽が盛んな町だったから。音楽でベートーベンのことを学習して、もっとベートーベンのことを知りたと思ったから。

・イタリア、イギリス

サッカーを見たい。ラッツィオのユニフォームを着て、サポーターと一緒に暴れたい。

・インド

本場のカレーを食べてみたい。

・北極

オーロラを見たいから。

・ギリシャ

古代の遺跡であるパルテノン神殿を一回でいいから見てみたい。(2)

・ハワイ

泳ぎたい。海のあるところに行きたい。(2)

・アイルランド

ある写真集を見て、「すごく景色がきれいだな」と思ったから。

・スウェーデン

行きたい国はない。外国に行くのは好きではないから。

・中国 (香港)

一度行ってみたいと思ったから。

・イギリス、フランス、イタリア

中学生のころからヨーロッパの歴史に興味があって、行ってみたいと思っているから。

2 その他に日本がタイ(東南アジア)へ輸出しているものにはどんなものがありますか。

バイク、機械、鉄鋼、紙、衣料品、ペン、マンガ、電化製品、ジュース、ゲームソフト、果物、野菜、自転車、木炭、CD、コンピューター、アイドルのグッズ

3 私たちが日本でよく使う挨拶で、日本文化的なものを取り入れているものといえば、この他にどんなものがありますか。

「もうかりまっか?—まあまあでんな」

「いただきます」

4 私たちが普段よく見る地図は、なぜ日本が真中に描いてあるのでしょうか。

- ・自分のいる位置が見やすいため。
- ・自分の国を世界の真中に置きたいため。
- ・自分の国をよく知るため。

5 あなたがもし英語が得意でなく、恥ずかしがりやであったとしても、タイの子どもたちのように、外国人に英語で話しかけようと試みますか。

- ・話しかけたいとは思いますが、通じなかったら困るから、話しかけない。
- ・たぶん話しかけないと思う。話しかけている人の後ろで話を聞いているだけだと思う。すぐに言葉が出てこないと思うから。
- ・機会があれば話しかけたいと思う。外国の人ともその国の言葉で話して交流してみたいと思うから。でも恥ずかしいかもしれない。
- ・話しかけない。話しかける理由がないから。
- ・話しかけない。英語は得意でないし、特に外国人に興味がないから。
- ・多分話しかけない。英語が得意でも話しかけないかもしれない。
- ・話しかけたいとは思いますが、恥ずかしいのでやっぱり話しかけないと思う。
- ・絶対に話しかけない。怖いから。
- ・話しかけないと思う。でも話しかけてみたい。
- ・相手が困っていない限り、多分話しかけない。
- ・話しかけない。話しかけたいけど、相手が話

していることが聞き取れないかもしれないから。

- ・自分が一人じゃなくて友だちが何人かいたら話しかけると思う。
- ・なんとなく楽しそうだから話しかける。
- ・得意じゃなくても話しているうちに英語を覚えると思うから、話しかけてみる。
- ・相手が話しかけてくれれば話をします。
- ・辞書を使いながらや、ジェスチャーをしながらでも話しかける。友だちの輪を広げたいし、いろいろな文化に触れてみたいから。

6-1 なぜ、タイの人たちにとって日本はあこがれの国なのでしょう。

- ・便利なものがたくさんあるから。
- ・お金がある、会社がある。
- ・日本の技術が優れているから。
- ・給料がいいから。
- ・タイより物価が高いから。経済的に十分な国だから。
- ・日本がわりとお金持ちの国だから、自分ももしかしたらお金持ちになれると思っているから。
- ・タイには日本のものがたくさんあって、日本の技術の方がタイより優れているから、その技術にあこがれるのかもしれない。
- ・日本のものがタイに輸出されているから。
- ・日本にはお金がたくさん入る仕事があるから。
- ・多分タイの多くの方は、日本はとても裕福で、いろんなものが発達していてとても住みやすいなどと思っているからだと思う。タイやいろんな国の人たちが日本に興味を持ってきていることはいいことだと思う。
- ・お金持ちの国というイメージがあるから。
- ・日本のことがタイのテレビで流れているのを見てあこがれている。そしてお金をもっていそいだというイメージから。

6-2 タイの人たちが日本語を勉強する目的はどんなものだと考えますか。

- ・タイにある日本の会社に就職したり、日本に来たときに便利だから。あこがれだから。日本の観光客が多いから、商品売るためには

日本語が必要だから。

- ・日本で働くためには日本語を知っておかないと働くことができないから。
- ・タイの人たちはタイにある日本の企業の労働者や通訳などの仕事についてたくさん稼ぎたいから。
- ・日本はお金の物価が高いから、給料も他の国よりも高いから、稼いでタイにもどって豊かに暮らしたいから？
- ・日本語を必要とする仕事につきたいから。
- ・日本に来たとき日本語が話せないと困るから。
- ・日本の観光客が多いから。

7 あなたは今、両親や、勉強できる環境に対してどんな気持ちを持っていますか。

- ・勉強がしたくてもできない人たちがたくさんいるのに、私たちはぜいたくにも学校に来ているのに、勉強に対する姿勢は良くないと思う。
- ・良い環境だと思う。すごくぜいたくだと思う。
- ・日本に生まれて良かったと思う。
- ・学校に行けて、勉強できるのは幸せなこと。親には感謝している。
- ・どの国のどんな子どもたちにも私たちのような

恵まれた環境が必要だと思う。勉強できることはとても重要だと思うし、したくてもできない子がいるのはかわいそうだと思う。

- ・当たり前のことだと思っていた。

8 タイの子どもたちの態度や、「先生の日」というものについてあなたはどのように思いますか。

- ・すばらしいことだと思う。
- ・日本にはないのでいいことだと思う。
- ・いいことだと思うが、いやな先生には花をあげない。
- ・タイの人たちは学校に行きに来て教えてもらっていることを、すごく感謝していると思った。勉強することはとてもうれしいことなんだと思った。
- ・日本もすればいいのに。
- ・いつも先生にお世話になっているのでとてもいいことだと思う。日本にもそんな日があってもいいと思った。でもきっと恥ずかしくてそんなことできないと思う。
- ・年に1回とは少ないと思う。
- ・「先生の日」はなくてもいいと思う。
- ・日本は先生に対する感謝の気持ちが少ないと思う。

〈御調高校での国際理解教育に関する取り組み状況〉

1 「外国文化理解講座」の実施（1994～1999年）

異文化に対する理解を深めると同時に自国の文化の再認識を目的として、毎週月曜日5・6限に2・3年生合同の選択授業という形で10数名の生徒が学習した。

（主な内容：カルチャー・シミュレーション、日・英・米の学校制度、パスポートの書き方、私たちができる国際協力、英語を用いて日本文化・広島を語る、JICAの職員の方によるJICAの活動についての講話、元青年海外協力隊員の講話）

2 総合的な学習の時間「まなびのとびら」における講座「国際」の開設

本校では今年度より総合的な学習の時間として、毎

週月曜日5・6限を設定した。

この授業においては、生徒が自ら課題を見つけ、調査・研究等を通して、課題を解決していくことを目的としており、講座「国際」もその目的に沿って展開している。

この講座においても、JICA職員、元青年海外協力隊員などを講師として招いている。

3 海外ホームステイの実施

ホームステイをする生徒に支援をするという目的で2年前に発足された、「御調高校を育てる会」の協力を得て、1999年3月、1名の生徒がアメリカで、1999年12月に9名の生徒が、オーストラリアでホームステイを行った。さらに2000年12月にも9名の生徒がオーストラリアでホームステイを行った。

2000年からは、御調町からの支援も始まり、今後10年間継続する予定である。

なお、ホームステイの成果については報告集を作成し、御調町、商工会、中学校など地域の各方面に配布し、広報に努めた。同時に参加生徒の体験報告も、いろいろな場において行った。

4 海外修学旅行の実施

国際化の推進が課題とされる状況において、数年前より修学旅行の見直しについて様々な議論を行ってきた。その結果、2000年度よりシンガポールへの修学旅行が決定され、2001年2月に第1回の海外修学旅行が実施された。この修学旅行への事前・事後の指導を通して、国際理解教育に取り組むことができた。

5 「御調中高生徒国際交流セミナー」の実施

1町に県立高校1校、町立中学校1校という現状と、過疎化、少子化が進む状況の中で、1999年度から2000年度まで中高一貫教育の実践研究校として指定され、中高生徒の様々な交流が取り組まれてきた。その一つとして2000年8月7日～8日に国際交流をテーマとして宿泊研修を実施した。中高生徒、外国人留学生、JICA職員、元青年海外協力隊員、中高教職員等、約50名が参加し、国際協力に関わる講話、シミュレーションゲーム、スポーツ交流、クッキング交流等を行い、有意義な国際交流イベントとなった。

6 「高校生国際協力体験プログラム」(JICA中国国際センター・広島県共催)への参加

1998年度 生徒4名、引率1名参加

2000年度 生徒4名、引率1名参加

2000年度の国際理解教育(開発教育)への取り組み

2000年

7月末～ ・JICA高校教師海外研修へ1名

8月初旬 参加(タイ研修)

8月16日～18日 ・JICA高校生国際協力実体験プログラムへの参加

(生徒4名、引率1名)

9月～10月 ・高校教師海外研修後の取り組みとして、自主教材を作成

“Thailand Through My Eyes”

11月～ ・自主作成教材を使用しての授業

対象 1学年全員74名

時間 16時間

担当 英語科教員3名

2001年

1月中旬～下旬 ・国際協力シミュレーションの実施
「私たちが考えた国際協力」

～ドーデモ村の物語～

対象 1学年全員74名

時間 4時間

担当 英語科教員3名

1月22日 ・総合的な学習の時間「まなびのとびら」研究発表会で生徒発表
「私たちにできる国際協力」

1月29日 ・「まなびのとびら 講座『国際』」にて元青年海外協力隊員による講演会開催

対象 2学年講座「国際」

選択者 12名

時間 2時間

2月上旬 ・“Thailand Through My Eyes”の生徒の感想を集約し、生徒に提示

・生徒が考えた「ドーデモ村」への国際協力案を集約し、生徒に提示

2月19日 ・「まなびのとびら」にて元青年海外協力隊員による講演会開催

対象 2学年全員(57名)

時間 2時間

2月22日 ・JICAの職員による講演会実施
テーマ(1)JICAの行う国際協力活動
テーマ(2)国際協力シミュレーションへの講評

対象 1学年全員(74名)

時間 2時間

国際協力シミュレーション

「私たちが考えた国際協力」
～ドードモ村の物語～

東南アジア大陸南部のボクラ共和国は、30年前に旧宗主国A国から独立しました。国土面積は4万km²、人口は200万人です。

主要産物、主食は米で、湿潤温暖な気候は地方によっては三期作を可能にしています。輸出産物は米、加工食品、果物などの農産物が大半を占めています。一方、工業製品、農薬、肥料などを輸入しており、輸入超過の状態が長く続いています。

ドードモ村は、山岳・高地に位置する北部ノミ郡に属する人口500人ほどの村です。

約60の家族が集落を作って暮らしており、わずかな平地は山を切り開いた耕地を利用して、米、キャッサバ、コーヒー、カシューナッツ、野菜、果物などを作っています。農法は先祖代々の焼畑農業を受け継いでおり、化学肥料や農薬は高価なため、使っている人はわずかです。また、乾期の水不足も毎年問題になります。

現金収入は、これらの農産物から自分たちの生活に必要な食料を引いた分を、ノミ郡最大の町であるナンダ町に持っていき、そこの市場で売って得ていますが、苗の購入や借金の返却に充てる分を除くと、医療や教育などに充てられるお金（可処分所得）は少ししかありません。近年、コーヒー栽培がお金になると聞いて、コーヒー栽培のために耕地を多く使う人が増えてきています。ただ、コーヒーの価格が安定しないこと、栽培が難しいこと、買い付けに町からやってくる業者が、交通の便が悪いため定期的に来ないこと、業者の言い値で売らざるを得ないこと、などの理由から、収入は必ずしも、安定していません。農民は、どうしたら安定した現金収入を得られるかに頭を悩ましています。

衛生状態も良くなく、雨期にはマラリア蚊が大量に発生し、重症患者が毎年2～3名出ますが、各家庭では、蚊帳を買うお金も満足に出せないのが、高床式の本造家屋で無防備な状態で寝るしかありません。患者が出ても、山を越えたナンダ町までは、約20kmの山道を徒歩で4～5時間かかるため、手遅れになる場合がほとんどです。マラリア以外にも下痢、はしか、な

どいろいろな病気にかかりますが、薬は値段が高くて簡単には買えません。薬で治る病気であれば多少高くても薬を買おうと思いますが、村の人には、そもそも病気に対する知識、薬に対する知識があまりありません。町で高いお金を出して買った薬が古くて使えなかったり、偽物だったりすることもあります。

村には、小学校が一つあります。レンガ造りの70m²ほどの面積の平屋建ての一教室で、村の集会所も兼ねています。以前あった建物は老朽化がひどく、台風で屋根がとばされて使えなくなってしまったので、ノミ郡政府とドードモ村の人たちがお金を出し合って去年建設しました。

しかし、田舎の村に来てくれる先生はなかなかいません。先生に払える給料が低いのも問題です。今の先生はノミ郡師範大学を5年前に卒業した女性の先生と、今年赴任してきた新卒の男の先生の2人です。30人のクラスを3部制で計約100人の生徒をおしえています。しかし、子供たちは、学校に行きたくて勉強したいと思っても、家の手伝いがあるため出席率は4割程度しかありません。子どもたちのほとんどは、小学校を卒業すると進学することなく家の仕事につきます。親としては、できることなら子どもをナンダ町の中学校に進学させてやりたいと思っていますが、学費や寮生活のお金が工面できません。ノミ郡には優秀な生徒への奨学金制度があり、毎年1名の子どもがこの奨学金を使って中学校に進学することができます。

村には電気や水道、電話はありません。水道管や送電線はナンダ町までしか来ていないのです。村の井戸は1つしかなく、生活や農作業に必要な水を汲んでくるのはもっぱら女性や子どもの仕事です。この作業は大変な重労働である以上に、井戸から遠い家では1日5時間近くをこの水汲み作業に費やしているのです。雨期には各家庭の水瓶に水を貯めておけますし、近くに小川もありますが、飲み水には適していません。電話がないというのも、いざという時に町と連絡できず問題です。町までの道も舗装されていない山道で、とても不便です。せめて砂利道位には整備したいところです。ちなみに郵便物はこの村まで配達されません。村人がナンダ町に買い出しなどの用事で出かけるときに、町の郵便局止めになっている郵便物を取りに行くのです。

バヤミさんは、この7月にドーデモ村の村長に選ばれました。若干39歳の彼は理想に燃えています。「何とか村人たちの生活を良くしてあげたい」。彼はそのことばかり考えています。

半年ぶりに首都イクラに買い物に出かけた彼は、町の市場で働く友人から、JICAのことを聞きました。何でも途上国の発展を助けるためにいろいろな援助をしている日本の政府の組織だということです。この話を聞いたバヤミさんは、村に帰る日程を変更して、さっそく首都の外れのビルの一角にあるJICAというオフィスを訪ねました。

彼は、村の実状を説明し、所員であるあなたに助言と協力を求めました。

さあ、あなたならどんな助言、協力をしますか？
(JICA主催1998年度高校生国際協力プログラムで使用されたものより)

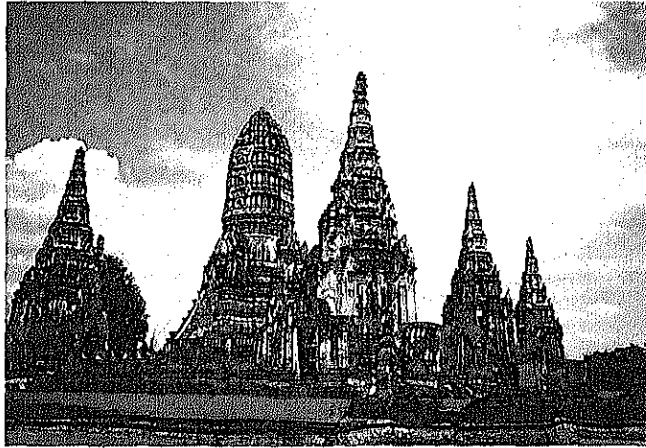
「私たちが考えた国際協力」

～ドーデモ村の物語～ 生徒の協力案

- ・医療
 - まずは医療施設が必要。
- ・牛を飼う
 - 乳製品を作って売る。
- ・交通
 - 病院にも早く行ける、郵便物も届けてもらえる、コーヒーを買い付けに来る業者も定期的に来てくれる。
- ・蚊を全滅させる
 - 病気が減るから。
- ・病院の建設と、薬の知識の習得
- ・農作物を多く作る。
 - そのために畑を作り、山を切り開くお金を得るためには農作物を売らなければならない。その時農作物が多ければお金がたくさん儲かって、肥料や蚊帳、薬が買えるから。そのお金で子どもを学校に行かせることもできるから。
- ・手軽にできる肥料作り
 - 高い肥料を買うためのお金がないので、簡単（手軽）にできる肥料があれば、もっと農作物が豊かになるから。
- ・マラリア菌に最強な薬の開発と、蚊帳の分配
 - 年に2～3人が死んでいるので、村のだれでも手に入れられて、すごく効果のある薬を開発したら、死亡する人も減るから。
- ・農業用の道具をそろえる
 - 農作業の効率がよく、学校に行ける子どもが増える。
- ・学校の先生の派遣
- ・医療の知識を身につける
- ・苗、化学肥料、農薬などを寄付する
- ・水道、電気を通す（ダムを作る）
- ・家一軒一軒に薬を送る
 - 家に薬をおいておけば、手遅れになる人も少なくなる。
- ・井戸を一つの家に1個掘る
 - 水くみに費やす時間を農作業に費やせる。
- ・すべての子どもに学習の場を与えるよう、教師を雇う。
 - 奨学金制度を作る。
- ・学校を作る
- ・水を村まで運ぶポンプを作る
- ・会社を作る
- ・ドーデモ村より環境の良いところへ村ごと移動
- ・ナンダ町の人ともっと親しくなる
 - 村が困っているときには町の人に協力をしてもらったりして、お互いに助け合うようにする。仕事も町で見つければ収入も安定してくる。
- ・いもを作る
 - 苗を買わずに、たねいもで育てればお金がかからない。
- ・ローソクを送る
 - 移動するときに持ち運べるから。
- ・いろんな技術を持った人を派遣する
 - 水がなければ「かずさ掘り」を教えたりする人。
- ・各家庭に網戸をつける
- ・政府が農民の生活を安定させるようにする
 - 例えば本物の薬を政府が買い、それを安く売る。あるいは政府が化学肥料や農薬を配る。
- ・浄水場を作る
 - 砂と石を使って水をきれいにする。
- ・郵便物などを運ぶためのリフトを作る
- ・その土地に合った作物を育てる（農業に詳しい人から指導を受ける）
- ・学費を安くする



Thailand through my eyes



Mitsugi High School

Miwa Sakakihara

Grade: _____ Class: _____ No. _____

Thailand through my eyes

Miwa Sakakihara

1 The chance to go to Thailand

Last year, I began to work for Mitsugi High School. Everything was new for me. One of the most interesting things is the education for international understanding. And I came to know JICA (Japan International Cooperation Agency) through it.

I have been in charge of JICA since last year. And then I got the news of the recruitment for participation in the study tour of Thailand. I wanted to go to Thailand and watch, hear and feel many things by myself. Fortunately, I got a chance to go to Thailand for ten days.

From this time until I left, I had the feeling that the time was passing like an arrow. On July 28th, I flew to Thailand.

<考えてみよう！>

1 あなたが行ってみたい国はどこですか。またその理由は何ですか。

the education for international understanding : 国際理解教育
JICA : 国際協力事業団
recruitment : 募集

2 Japan I met in Thailand.

When I got to Thailand, I noticed some things. On my way to the hotel by car, I saw many Japanese cars from the window. TOYOTA, NISSAN, HONDA, SUZUKI and so on. I was very surprised at that.

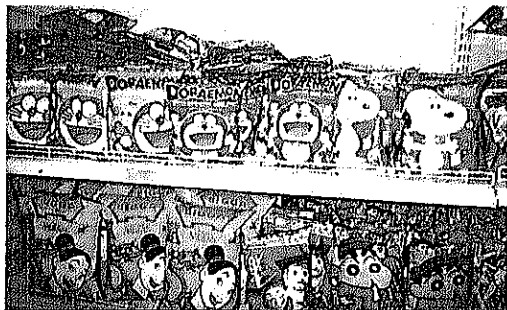
Next, I saw many buildings of Japanese companies and stores. For example, Nisshin, Tsutaya, Sogo, Seven-Eleven, Family mart.

And when I went to the supermarket, I found many Japanese foods and goods, too. There are so many Japanese things that I asked myself "Where am I?" The scenery showed me that many things made in Japan were exported to Thailand.



on one's way to ~ : ~へ行く途中で

Then, I also met Japanese characters. At the supermarket, I found *Kurayon-Shinchan*, *Doraemon*, *Kitty-chan*, *Tarepanda*. And when I was watching TV, the animation *Kureyon-Shinchan* was being broadcasted in Thailand. I heard that many Japanese characters were popular with young people. But I was very sorry that *Shinnosuke* in Thailand was not the same as the one in Japan, because his way of talking was quite different. I wanted people in Thailand to listen to his voice and the tones and intonations of Japan.



B "Have you eaten yet?"

I was told an interesting story by one of the tour members. I heard that he had been asked by an interpreter in Thailand "Have you eaten yet?" again and again. He wondered why she asked him the same

<考えてみよう！>

2 その他に、日本がタイ（東南アジアの国々）へ輸出しているものにはどんなものがありますか。

thing so often. She told him that "Have you enten yet?" was one of the greetings like some Japanese ones. We say in Japan, for example, "It is fine today, isn't it? — Yes, it is." "Where are you going?" — "Chotto sakomade."

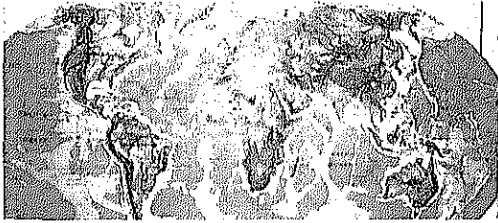
But when he was asked that question for the first time, he answered just frankly "Yes, I have." or "No, I haven't." She added to us, "I wondered why Japanese people always asked me about the weather while I was in Japan."

His information taught me that we have our own culture even in the usual greetings. Can you find the same kind of expression in Japan?

4 Japan on the map.

Have you ever found Japan on the map? Do you know where Japan is on the map? Of course, you have and you do.

But the map that I saw in Thailand was different from Japanese one.



In Thailand, I saw the third type of the world map. In the map, Thailand is placed in the center of the world map. Because Japan is our country, we draw Japan in the center of the map, don't we?

I wonder if every country has a map with the country placed in the center.

5 Nice meetings at some schools

We visited three schools during our ten-day tour. At first, we went to Tharua "Nittayanukul" school. Many students were just taking exams when we visited there. But during the recess, they went out of the classrooms and they watched us with interest and shyness. Some of them came near to us and talked to us in English. I myself was talked to by some junior high school students, too. They asked me



<考えてみよう1>

3 私たちが日本でよく使う挨拶で、日本文化的なものを取り入れているものといえば、このほかになんかありますか。

<考えてみよう1>

4 私たちが普段よく見る地図は、なぜ日本が真中に描いてあるのでしょうか。

"Where are you from?", "What's your name?", "How old are you?" and so on. I was very glad that they had tried to talk to me not in Thai language but in English.

How about you? Will you try to talk to some foreigners in English, even if you are not good at English very much and you are shy?

6 The education of Japanese language

I could see Japanese products all over Thailand. I heard many young people in Thailand were attracted to Japan. And so they're also interested in Japanese language.

Japanese language is taught in some junior high schools, senior high schools and universities. We visited Ubonlachatan University where



Ubonlachatan University : ウボンラチャタニ大学

Ms. Hiraiwa, a member of JOCV (Japan Overseas Cooperation Volunteers), taught Japanese. I asked her why many people in Thailand were interested in Japanese and wanted to study so hard. She answered that they wanted to get a job which required the knowledge of Japanese language, for example, a worker at Japanese company in Thailand, interpreter and tour conductor, but, in fact, it is very difficult for them to get that kind of job.

To hear her say so, I thought that was the same in Japan.

7 School education in Thailand

We visited the Ministry of Education, too. We learned a little about school education in Thailand. Usually, children in Thailand go to school at the same age of children in Japan.

I was deeply shocked to hear that although many children wanted to go to school, most of them couldn't, for or they have to help their parents work, or they aren't let to learn because of poverty. We have to reevaluate our present conditions and do as much as we can.

How about you? Are you thankful to your parents and for your learning environment?

JOCV : 青年海外協力隊

<考えてみよう！>

5 あなたがもし英語が得意でなく、はずかしがりやであったとしても、タイの子どものように、外国人に英語で話しかけようと試みますか。

6 (1) なぜ、タイの人たちにとって日本はあこがれの国なのでしょう。

<考えてみよう！>

(2) タイの人たちが日本語を勉強する目的はどんなものだと考えますか。

7 あなたは今、両親や、勉強できる環境に対してどんな気持ちを持っていますか。

8 "Teacher's Day"

On seeing some students in Thailand, I thought, "how pure they are!" They certainly make a polite bow and press their palms—wai—to the elders. They made a polite bow and "wai" to us. I've heard that bowing is a customary form of greeting in Thailand. Children in Thailand always look up to the elders. It is a very good custom and we Japanese are losing it. We should follow the example.

And we heard an Industrial Vocational School had "Teacher's Day". One day a year, students give flowers to their teachers with thanks. What do you think about this?



wai: ワイ (合掌のことで、胸の前で両手を合わせ、お辞儀をするタイの挨拶)
Industrial Vocational School: 工業職業訓練校

<考えてみよう!>

8 タイの子どもたちの態度や、「先生の日」というものについてあなたは
どう思いますか。

9 People living on the boat ~the gap between the rich and the poor~

We saw the sights of Bangkok on Sunday from a boat through the river. Have you ever seen "markets on the water" on TV? We saw them from a boat. Many people on boats came near to us to sell things for souvenir. Standing on a rolling ship, they talked to us in Japanese. "Koro - Yasui. Mitsudo - Sennen."

During a trip on a boat, we found a life on the boat. There were many people living on the boats. Many washes were hung out and people were feeling at ease. Cats were sleeping, too. Many boats were covered with plastic sheet to avoid the rain. I thought the boats were used for fish-



marketa on the water: 水上マーケット

<考えてみよう!>

9 本文を読んで感想を書きなさい。

ing but it seemed that they didn't move out there. They have been used for it before.

I could see many lifestyles from the boat. Many foreign tourists like us always see them. At first, I thought it was a good chance to know various lifestyle, but every time my eyes met people living on the boats, I felt that I couldn't say anything definite. Still I came to feel the gap between the rich and the poor by this experience.

10 What I thought about international cooperation through this tour

Do you know what international cooperation is like? Do you know there are many developing countries and areas that need assistance?

Do you know Japan was poor and was helped by other countries, too? *Tokaido Shinkansen, Tomei Expressway, Kurobe dam* were all constructed by international cooperation.

Japan became rich gradually, and so can support other countries now. Japan began to support them in 1954 through ODA (Official Development Assistance). Japan has been supporting Thailand, too.

developing countries: 開発途上国

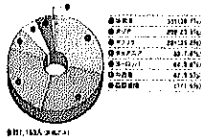
ODA (Official Development Assistance) 政府開発援助

In Japan, ODA means foreign aid or international cooperation, and it includes grants-in-aid, technical assistance, loan aid, and so on.
無償資金協力 政府貸付 (円借款)

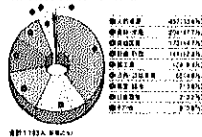
How has JICA been supporting other countries? Do you think that the support is just an economic one?

JICA plays many very important roles. For example, it helps many people in developing countries and areas to learn different kinds of technology in Japan or their own countries and areas. And it sends equipment and machines to countries and areas that need them. It also sends many JOCV to many places and they're working hard in many fields such as hospitals, schools, laboratories, and so on. This shows that the support is more than just money. Some people support other countries as NGO. NGO stands for Non Governmental Organizations. They are citizens' groups which cooperate in development projects, and promote development education both in advanced countries and in developing countries. So we can support countries not only as a nation but also as individuals.

◎日本の国別別対外援助人員数(万人)別



◎日本の国別別対外援助人員数(万人)別

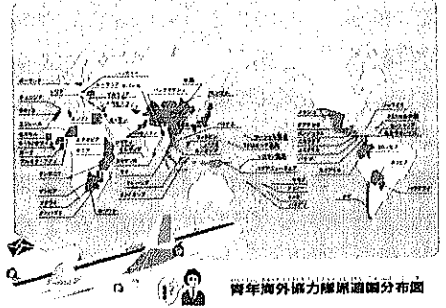


「地球の明日を見つめて」よ

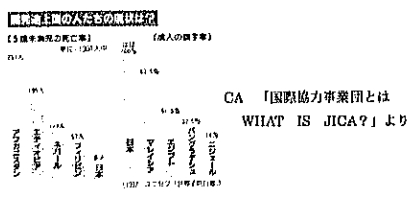
NGO: 非政府組織, citizen's groups: 民間団体, development projects: 開発事業, Development education: 開発教育, advanced countries: 先進国

What do we have to? What can we do for international cooperation?
 Why do we support other countries? These have been big questions for me and I want to continue to consider them. And I also want to think what I can do.

Let's discuss these problems!



JICA 青年海外協力隊事務局出版
 『青年海外協力隊 知ってほしい! わたしたちの活動について』より



.....

.....

.....

.....

.....

<考えてみよう!>

10 (1) 国際協力とはどんなものだと思っていましたか。

.....

.....

.....

.....

(2) 私たちは何をする必要がありますか。

.....

.....

.....

.....

.....

(3) 国際協力として私たちに何ができると思っていますか。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

(4) なぜ私たちは他国へ協力する必要があると思えますか。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

<まとめ>

全体を通して印象に残ったこと、思ったことを書きなさい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

参考

生徒の感想

～“Thailand Through My Eyes”を学習して～

1 国際協力とはどんなものだと思っていましたか。

- ・よく知らなかった。(8) 聞いたことはあった。
- ・貧しい国にお金をあげるだけだと思っていた。(18)
- ・他の国に災害が起こったら、医者や自衛隊をその国に送り出す。
- ・お金を寄付したり、人がいろんな国に行って助ける。ボランティアなどをする。
- ・難民がいるところに行って手助けをすること。お金を寄付する。国と国が助け合うこと。
- ・世界が協力すること。(11)
- ・機械、食料を送る。(6)
- ・いろんな国々が交流して、助けたり協力しあったりすること。
- ・お金を支援する。農業とか技術を教える。学校で使うチョークや黒板消しを送る。(3)
- ・協力隊員の派遣。(3)
- ・国際協力はただお金や服などを送っているだけだと思っていたけど、言葉やいろんな技術を教えたりしているとは知らなかった。(3)
- ・お金を使って支援したり、そのお金で物を買って送ったりするものだと思っていた。でもそれだけではなく、人もその国に入ってその国の人々を助けているということがわかった。
- ・その国に必要な物を送る。
- ・医療や農産業や教育を支援すること。
- ・看護婦さんや医者が行って医療の手伝いをする。
- ・物資や資金を送ったり、協力隊を派遣しているのは知っていた。自分は医療に関係することで国際協力をしてみたいと思った。
- ・貧困で困っている人にお金や食料を送ったり、火災や地震などで壊れたものなどを直したり、復旧作業などを手伝う。とにかく、他の国で困っている人を救う。
- ・学校がない国に学校をつくってあげる。
- ・ボランティアグループの人たちが連携していろんな国に対して協力すること。
- ・ボランティアをすること。

2 私たちは何をする必要がありますか。

- ・自分には今、技術とか何もないけど、募金はたぶんできると思う。将来看護師になったら途上国で医療に携わる人になりたい。
- ・まず、他国の状況を自分の国のように知ることが大切だと思う。どこの国がどんなふうに貧しく、もしくは何が必要なのかをいうことを知る必要があると思った。他国の状況を知ることによってもっと広い視野で世界の状況が見えてくると思う。
- ・他国がどんな状態なのか、どんな生活をしているのかななどを勉強する。そしてできることがあれば積極的に協力していく。そして平和を願う。
- ・わからない
- ・生活環境の悪い国では、病気にかかる可能性がとても高いので、病院を建てるためにお金を集めたり、薬や環境整備をする。
- ・もっと人を送る。
- ・自分ができることを探し、探し出せたらそれを一生懸命する。でもその「できること」を探すのが難しいと思う。
- ・募金をする。(7)
- ・世界で起こっていることを学び、考える。(2)
- ・食べ物を大切に作る。
- ・国際協力について勉強する。
- ・今は何をする必要がありますのか、何ができるのかはわからないけど、これからずっと、個のテーマについて考えていきたい。まずはそれから始めようと思う。
- ・何ができるかを考えて、できることを実行したい。
- ・国際協力について学び、もっと深く理解していく必要があると思った。他の国の経済など、援助を必要としている国々にもっと目を向けて私たちにできる小さなことを積み重ねたい。
- ・国際協力についてなるべく多くの人に知ってもらいたい必要があると思う。
- ・貧しい人々を助けるための活動をしなければいけない。
- ・技術や物資を送る必要があると思う。そのためには人を派遣したり、募金したり、小さなことでもしないといけないと思った。(2)

- ・自分にできることをする。
- ・募金、使用済みテレカを集める、書き損じハガキを集める。
- ・いろんな国の現状を知る。(2)
- ・困っている国の人々のために、その土地と環境にあった物を寄付したり、その国がもっと発展するようにいろんな物を作って行ってそこで働けるようにその国々の人々に技術を教えるために、いろんな国がサポートをしていけばいいと思う。
- ・学校を建てる、資材を調達する、家がない人たちに住むところを建てる、技術を教える人を育てる(2)
- ・他の国に興味を持つ。
- ・他の国に協力すること。
- ・いろんな国が協力しあって、今より高い技術を生み出して海外へ送る。
- ・技術を持った人を育てる(2)
- ・国々の交流。
- ・食べ物や、生活に必要なものが十分でない国への募金は、ほとんどが軍事費として使われていて、そこに住む人にきちんと届けられていないこともあるらしいから、そういう面で、ちゃんと住民に届けて欲しいし、そうできるようにしてほしい。
- ・みんなで力を合わせて何かをする。
- ・途上国の言葉を習う。日本の景気を回復させ、援助に関わるお金をもっと増やす。
- ・青年海外協力隊として途上国に行く。NGOとして支援をする。
- ・貧しい国へ機械や食料を送るだけでは、機械が壊れてしまった時に修理の仕方がわからないと思うので、そういう技術をもった人材を送り、教える。
- ・ボランティアで、自分にできることを何かしてあげたいと思った。医療や生活が安定するために寄付もしてあげたい。

3 国際協力として私たちに何ができると思いませんか。

- ・古着を送る。
- ・古切手、使用済みテレカの回収など、お金になるようなことをして、寄付する。(3)

- ・使わなくなったえんぴつや服などを、他の国にあげるようにする。(15)
- ・お金を集める。募金をする。(23)
- ・わからない。(2)
- ・ベルマークを集めて、品物にかえて送る。
- ・青年海外協力隊員として途上国に行く。(3)
- ・話をする。
- ・他の多くの国について興味を持って学んでいき、国際協力について理解すること。(2)
- ・国際協力をしている人への資金援助。
- ・経済的な援助だけでなく、伝統技術などを伝えていくこともできると思う。
- ・自分のできる範囲で助けてあげる。
- ・国際交流。(2)
- ・金銭的な援助。技術や能力の援助。もっと楽しい遊び方や生活の仕方も教えてあげたい。
- ・今の私たちには、国際協力や発展途上国などの実態を知り、将来自分たちに何ができるかを今考えておくことが必要だと思う。今の大人には、「国際協力」と言ってもピンとこないと思うから、私たちが大人になったとき、みんなに国際協力と言う言葉を知っている世の中にならなれないと思った。
- ・日本で発達していること(医療など)を海外に持って行って広める。少しずつ便利なものを伝授していく。
- ・技術を教える。(2)
- ・野菜の種を送る。
- ・何でもチャレンジする。
- ・技術を身につけて外国に行く。
- ・国際協力に興味がある人たちは、どんどんそれについて勉強していけばいいと思う。
- ・他国の商品を買う。
- ・残さず食べる。
- ・もっと勉強して日本語を教える。(2)

4 なぜ私たちは他国へ協力する必要があると思いますか。

- ・世界の人々が幸せに暮らせるように。
- ・昔は日本も支援を受けていたから。(27) “ギブアン

ドテイク” だと思う。

- ・ 必要ない。
- ・ 国籍は関係なく、人間は人間だし、お互いに助け合
って生きていくのが当たり前だと思う。協力する
のが当たり前。
- ・ 自分たちが逆の立場になれば助けを求めらるうか
ら、自分たちなりにできる限りのことをする。
- ・ 国と国との貧富の差をなくすため。
- ・ 戦争でいろいろな国にひどいことをしてきたから。
- ・ 自分たちも他国から、いろんなことを教えてもらっ
ていたり、協力してもらっているのだから、他国にも
協力する必要があると思う。
- ・ 交流を深めるため。
- ・ 人として。
- ・ 同じ地球に住んでいる人間同士なので。(3)
- ・ 日本は豊かな国なので、余裕があるから。(3)
- ・ みんなで仲良くしたほうがいいから。
- ・ 助け合いは必要。(4)
- ・ 他国の援助を求めないといけないような状態にま
できていないから。
- ・ 昔、日本も援助してもらっていたから。そして、す
べての国が互いの国と協力して助け合っていく必
要があると思うから。
- ・ 自分が困ったとき、それが自分では解決できないと
きは、周りの人から助けてもらわなければならない。そして助けてもらったら、自分も周りの人
を助けなくてはならない。他国へ協力するという
ことは、自分の国を助けるということでもあり、

そして自分の国だけでなく他国の多くの人々を救
うことができるということだと思うから。私たち
は人として協力し、助け合っていくことを
する必要があると思う。

- ・ 世界中の人々が平和でいられるように。
- ・ わからない。
- ・ 他の国も発展させるため。
- ・ 協力することによって国と国の意識が変わり、戦争
が起これなくなると思うから。
- ・ みんな一つの世界に住んでいて、みんな同じ人間で、
私たちが家族や大切な人を大事にするのと同じように、他国の人々も大事にしないといけない。
また、国と国同士がお互いうまくつきあっていけ
ば、どちらの国も豊かになれる。
- ・ 日本だって他国からの支えがあってこそ成り立って
いるし、他国だって日本の支えを必要としている
と思うから。
- ・ 貧しい人々を助け、世界のみんなが不自由のない生
活をするため。
- ・ 苦しんでいる人がいるのに、ほっておくわけにはい
かないから。
- ・ 人間一人の力だけで社会が成り立っているわけでは
ないから、助け合いは必要。
- ・ その国だけだと、なかなか国が安定しないと思う。
生まれてきても安心して生きることができない人
がいるのは、不平等だと思う。それを助けるため
には、お互いが協力するのは必要だ。



タイと日本・タイと沖縄

— 途上国の人々のために何ができるか —

HIROAKI YOZA
與座 宏章
 地理・歴史
 沖縄尚学高等学校

1 実践の目的

ボーダレス化がますます進む今日の国際社会。人的・物的な交流は、すでに一国の枠内だけにとどまらず、世界の国々へと広がっている。先進国の一員として、繁栄を謳歌するわが国として例外ではない。今や日本人の生活は、世界の国々、わけても近隣のアジアの途上国の人々の生活と密接な関わりを持っており、彼ら

に支えられて成り立っているといっても過言ではない。

本授業実践では、タイ社会をモデルに途上国の実状を紹介し、日本人の生活との関わりを理解させる。そして、途上国支援のために日本は何をすべきなのかを、また、途上国の人々のために、高校生である生徒たちが「今我々に何ができるか」を考える機会とする。

2 授業の構成案

	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時 限 目	テーマ：タイ文化と沖縄・日本文化 ねらい：タイ伝統文化から沖縄文化が受けた影響。タイ現代文化が日本文化から受けた影響を知る。	(1)「タイを知ろう」クイズ (2)タイで販売されている日本製品（食料品・CD・アニメなど）を紹介する。 (3)スライドを通しタイの伝統文化・庶民文化に沖縄文化との共通点を探る。	(1)タイで収集した、食料品パッケージ・新聞・通貨写真スライド (2)タイ地図 (3)タイ民族楽器・CD
2 時 限 目	テーマ：日本人の生活とアジア途上国の人々の生活 ねらい：我々の日常生活が途上国の人々にどのような影響を及ぼしているかを知る。	(1)日本市場向けのバナナプランテーションと庶民の生活の関連性を学ぶ。 (2)日本市場向けのエビ養殖場と庶民の生活の関連性を学ぶ (3)途上国の社会・生活の課題を学ぶ	(1)文献「バナナと日本人」「エビと日本人」（岩波新書） (2)タイで収集したスライド写真
3 時 限 目	テーマ：わが国の途上国支援の実状 ねらい：わが国の途上国支援の実状を知り、その功罪を検証する。	(1)スライド・統計資料を通してタイにおける日本のODA援助の現状を紹介する。 (2)ビデオ教材をもとに日本のODA支援の課題を考える。	(1)JICAホームページ「JICAの実績」 (2)パンフレット「アキラ先生の国際協力物語」 (3)ビデオ「国際協力を考える（NHK）」
4 時 限 目	テーマ：途上国援助—どうあるべきか ねらい：途上国支援のために、今自分に何ができるかを考える。	(1)ゲスト講師（協力隊OG）に草の根協力の体験談を話してもらう。 (2)グループで、わが国の国際理解・国際協力がどうあるべきか、今我々に何ができるかを話し合い、発表してもらう。	(1)JICAホームページ「今私たちにできること」 (2)青年海外協力隊募集パンフレット (3)ビデオ「青春の大地」

③ 授業の詳細

1時限目

「タイ文化と沖縄文化・タイ文化と日本文化」
 ータイ伝統文化から沖縄文化が、日本現代文化から
 タイ文化が受けた影響を理解するー

①グループ対抗 クイズ「あなたはタイをどれだけ知
 っているか」(15分)

第1問 タイの宗教は何? 答:仏教

第2問 タイ料理を代表する酸味のスープの名は?

答:トムヤンクン

第3問 沖縄の食文化でタイ産のあるものを使ってし
 か製造することができないものは? 答:泡盛
 など計10問。

②「日本の現代文化はこんなにタイに進出しているんだ」(15分)

- ・タイで収集してきた現地進出日本企業のお菓子・飲料のパッケージ、タイ語版日本コミック雑誌、日本製品の全面広告が入った現地新聞などを紹介する。その間、日本のミュージシャンの音楽をカバーした現地歌手のCDをBGMとして流す。

- ・写真スライド⇒タイの現代文化を紹介する。バンコクの近代的な街角、日本から進出したコンビニエンスストア、学校、交通渋滞等 (写真①)

③「沖縄文化のルーツはタイにあった」(15分)

- ・写真スライド⇒タイの人たちの顔立ち、庶民街、民族舞踊などを紹介する。(写真②)

- ・タイ産の原料を使っている泡盛や「三線」(楽器)に代表されるように、タイと沖縄には古くから

交流があったことを理解させる。この間、BGMとしてタイ民族音楽。タイの伝統楽器を生徒に鳴らしてもらう。

④各生徒に「タイと日本、タイと沖縄ー今日わかったこと」というテーマのショートレポートを書いてもらう (5分)

⑤生徒の反応・ショートレポート (生徒の感想) の内容

… タイは決して私たちの世界とかけ離れた世界ではないんだと思った。それにしても、タイにまで進出したキティーちゃんやウルトラマンには驚いた。…

… タイ語で表記されたグリコポッキーやロッテチューイングガム、カルピスソーダは傑作でした。…

… タイの近代的な街並みと伝統文化のコントラストはとても印象的で、私も将来タイに行ってみたいと思いました。…

… スライドに出てきた男の子が僕のいここにそっくりでした。タイと沖縄の間に深い繋がりをを感じる事ができました。…

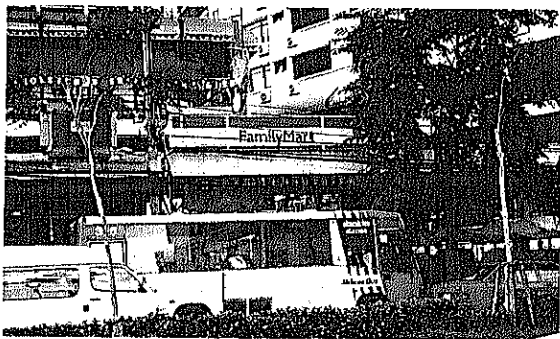
2時限目

日本人の生活とアジア途上国の人々の生活

ー我々の日常生活が途上国の人々にどのような影響を及ぼしているかを知るー

①「我々の食生活が途上国の人々にどう影響しているか」(30分)

資料プリントなどを使い、以下の2つの事例を説明する。



写真①タイに進出する日本企業 (バンコク市内のコンビニエンスストア)



写真②タイ人は沖縄人にそっくり (アユタヤ市内の中学校で)

事例1)「バナナと日本人」

- ・ 1950年代から日本のバナナ市場の成長を背景にアメリカ農産物メジャーがフィリピンに注目。住民を巧みに誘導しバナナプランテーションをつくりあげる。
- ・ 激烈な労働に従事した見返り⇒農民のバナナへの投資は会社からの借金。⇒日本のバナナ市場の低迷⇒農民の収入は日本での小売価格の2%、しかしそれも借金の返済でほとんどなくなる⇒生活するために新たに借金⇒半永久的にバナナ奴隷から逃れられない
- ・ 戦前の沖縄出身移民とバナナプランテーションとの関わり。

事例2)「エビと日本人」

- ・ 1961年日本のエビ輸入が自由化されると日本の商社や水産会社が合弁会社を設立し、大型トロール船によるエビの乱獲⇒資源の枯渇
 - ・ 東南アジア沿岸にエビの養殖池⇒マングローブの伐採
 - ・ 東南アジアはエビ輸出で価格上昇⇒庶民の口に入りにくくなった
- ②「アジアの途上国はどのような社会問題を抱えているか」(15分)
- ・ 写真スライドを使いながらタイの農村・庶民の生活の様子を紹介し、併せて、貧困、環境破壊、エイズ、ストリートチルドレン、生活インフラ未整備などの途上国が抱える課題を紹介する。(写真③)
- ③グループディスカッション「途上国の抱えている問題と私たちの生活」(10分)



写真③灌漑設備の不備で雨季に水没した家屋(ウボンラチャター市)

④生徒の反応・所感

前回の授業でタイをはじめとした東南アジアの国々への親近感を醸成することに主眼を置いたが、その東南アジアの人々に我々日本人の生活が大きなしわ寄せを与えているという実態に、ほとんどの生徒が少なからぬショックを感じた様子。途上国の問題が我々の生活と無関係のものではないということを気づかせるという本時の最大のねらいは達成できたようだ。グループディスカッションでは、途上国のために日本はもっと努力しなければならないという意見が大勢をしめた。

3時限目

「わが国の途上国支援の実状」

一わが国の途上国支援の実状を知り、その功罪を検証する一

- ①「わが国のODAはこのように使われている」(20分)
- ・ スライドを通じ、タイで行なわれている国際協力の事例を紹介する。
 - ・ JICA発行パンフレット、ホームページを通して、日本政府が行なっている国際協力の全体像を理解させ、途上国の発展に多大な貢献をしていることを理解させる。同時に現在の国際協力の問題点も理解させる。
- ②「わが国の国際協力、どうあるべきか」(25分)
- ・ 「震災から5年—わが国の国際協力を考える」(NHKスペシャル)を上映する。
- ③各生徒に「わが国の国際協力の実状—今日わかったこと」という内容のショートレポートを書いてもらう(5分)
- ④生徒の反応・ショートレポート(生徒の感想)
- … 僕たちの税金を使ったODAでタイの社会問題が改善されているということに喜びを感じました。… 同時にトルコでの失敗例には、日本人として恥ずかしい思いでした。国際協力がどうあるべきかをもっと考えなければなりません。
- … トルコに渡った仮設住宅の現状を見て、大変なショックを受けました。よかれと思って行なった援助がまったく実を結んでいない現実を目前に、私はいったい国際協力とは何なのかと考えざるをえませんでした。

4時限目

途上国援助—どうあるべきか

—途上国支援のために、今自分に何ができるか。—

①草の根協力—「青年海外協力隊って何をするの？」

(25分)

- ・ゲスト講師=協力隊OG佐藤真弓さんの協力隊体験談
- ・佐藤さん自身の協力隊員としての経験(きっかけ、活動の現状など)を語ってもらい、個人レベルの草の根協力をイメージしてもらう。

②「国際協力—今私に何ができるか？」(25分)

- ・グループディスカッション。過去4度の授業で学んだ内容を踏まえ配布資料(JICAホームページ「いま私たちにできること」、青年海外協力隊募集パンフレット)も参照して、それぞれ意見を出してもらう。最後にグループごとに発表してもらう。

③生徒の反応・ショートレポート(生徒の感想)

(ア) 各グループで活発な意見交換が見られた。今回の授業の前には国際協力ということばに無関心な生徒も多かったが、「途上国のために日本がやるべきことがたくさんある」「今自分ができるところから国際協力を進めなければならない」という類の積極的で活発な意見交換が見られた。

(イ) 2学年授業では、「まず途上国の実状をもっと知ること」「身近に住んでいる途上国出身の人々を助けよう」「私たちの日常生活を見直すべき」「将来は協力隊員やNGOスタッフとして国際協力に参加したい」「NGOの使われ方を一国民としてチェックすべき」などの意見が発表された。

(ウ) 地域国際交流研究クラブでは、平生から開発教育に取り組んでいることもあり、意識が高い生徒が多いため、より具体的な意見が出された。ディスカッションの中で、生徒たちが中心となって以下の事項を決議した。

- ・学園祭で昨年に引き続き「アジア途上国パネル展」を開き、途上国支援の募金活動を行なう。なお、昨年は学園祭の収益金および募金をフィリピンスモーキーマウンテン支援団体へ寄付した。

(写真④)

・JICA沖縄国際センターから、タイをはじめ東南アジア出身の研修員を招き、勉強・交流会を行なう。(12月5日)

・実際に東南アジアの支援活動を行なっている「NGO沖縄」から講師を招き講演会を開催する。(12月末)

・日本赤十字主催の歳末助け合い募金にボランティア参加。(12月末)

・将来的に、東南アジアの支援現場を訪ねるスタディーツアーを企画したい。

(エ) 希望者を対象に、JICAから取り寄せた「青年海外協力隊募集パンフレット」を配布し、同じくJICAからレンタル協力いただいたビデオ「青春の大地」を昼休みを利用して上映した。

使用・引用した文献・資料等

- ①タイにおけるJICA事業概要(国際協力事業団タイ事務所)
- ②「バナナと日本人」岩波新書
- ③「エビと日本人」岩波新書
- ④「ODA援助の現実」岩波新書
- ⑤「JICAの実績」「今私たちにできること」(JICAホームページ)
- ⑥パンフレット「アキラ先生の国際協力物語」(財団法人国際協力推進協会)
- ⑦パンフレット「青年海外協力隊募集要項」(国際協力事業団)
- ⑧ビデオ「震災から5年—わが国の国際協力を考える」(NHKスペシャル録画)
- ⑨ビデオ「青春の大地」(国際協力事業団)



写真④地域国際交流研究クラブでは学園祭の収益金等をアジアの途上国に寄付することにした(写真は昨年の学園祭の収益金等をフィリピンのスモーキーマウンテン支援団体に寄贈した際のもの)